



やっこ草

延岡市立熊野江小学校

No. 3

令和5年7月1日発行

プール開きを行い、水泳学習がスタートしました。「大」の字になって浮いたり潜ったり、楽しそうに水に親しむ子ども達の姿があります。

小学校の水泳指導のねらいは、水遊びや泳ぐ楽しさを体験させるとともに水遊びでの安全に関する心得を身に付けさせることです。水泳授業に際しては、子どもの健康状態の把握が大切です。子ども達には、「健康観察カード」を忘れた場合はプールに入れないことを伝えています。自分の健康状態を知ることと水泳中の約束を守ることが水泳学習の基本です。



海や川などでの水の事故が報じられますが、こうした事態を防ぐためにも水への正しい理解をして、泳ぐ楽しさを体験させたいと願います。



叱るということ 大人の役割

ピラミッドの石に刻まれた古代文字を解読したら「近頃の若者は……」という大人の嘆きであったとか…そんな話を聞いたことがあります。

若者は、昔から親や権威に反抗するものであったようで、特に親には理屈、へ理屈を並べたて、素直になれない傾向があります。この反抗期は、成長の一コマと心理学でも位置付けられており、自然な思春期の姿と言えます。

大切なのは、それに対する**大人の役割**です。何しろ大人がたどってきた道ですから。人生の先輩として適切な対応で、素直で健全な道を歩かせたいものです。と言っても、特効薬や解決策があればよいのですが、なかなか上手くはいかないのが現実です。

それでも、強いて言えば、親が本気になって子どもと向き合うことでしょうか。もし、子どもが、自分の人生に無責任になったり、他人に迷惑をかけたりしたときには、心から悲しみ、怒り、真剣に叱ることがとても重要です。

「**愛すれば育つ、憎めば枯れる**」という言葉があります。「こんなに泥だらけにして！もう洗濯が大変！」など、親の都合で怒ったり、腹立ちまぎれに「どうしていつもあんたはこうなの！」といった救いようがない叱り方やくどくど嫌みを言い続けるような叱り方では、素直な反省は期待できません。叱責の中には、「次はしっかりするぞ」という意欲を持たせるヒントや励ましを入れるようにしたいものです。

